

『改訂版 ON!1』で“活動しながら” 音楽表現の基礎を身につける

ONTOMO高校 音友キョウカ先生の日々



楽曲の習得にとどまらない学びを実現できる、ちょっと欲張りで新しい教科書『改訂版 ON!』。一体どんな風に授業で使えばいいのでしょうか？ 一例として、とある高校の音楽科教諭が奮闘する2年間の様子をご覧ください。

4月

新学期、できることから楽しく学ぶ！

——新しい学校、新しいクラス、期待と不安でいっぱい生徒たち。
ONTOMO高校の音楽科教諭、音友キョウカ先生もまた、授業を始める前は期待と不安でいっぱいだった……。
「まずは何か歌ってみようか！ この曲、知ってる？」



他にも
♪やさしさに包まれたなら
♪花は咲く
♪ハナミズキ
♪少年時代
♪島唄
etc...

——まだ声を出すのに抵抗のある生徒もいるな……。
「歌の次は手拍子。私につづいて、このリズム、打てますか？」

ONGAKUをはじめよう 1. リズムに乗って

STEP 1 【リズムA】を、手拍子や身近な打楽器で演奏しよう

導入は簡単なリズム打ちから…

自分で書き込みながら実践

数字をふるだけで簡単な作曲も

楽譜の読み書きを楽典コーナーで確認

音楽の要素の学習は楽曲と結び付けて…

ONGAKUをはじめよう 「1.リズムに乗って」(p.4-5)

——さっきあまり歌えなかった子も、リズムについて学びながら自信をもってリズム・アンサンブルに取り組んでみたい。じゃあ次は……
「このリズム譜と『翼をください』を合わせてみよう！」

——易しいリズム・パターンを加えただけで厚みのある演奏になって、生徒も満足そう！ 笑顔で授業を終えることができてよかったー！



キョウカ先生は生徒たちの
笑顔を手に入れた!!

——最初の授業から、音楽を通して少しずつ信頼関係を築いてきたキョウカ先生と生徒たち。

6月はじっくり合唱に取り組んで、7月はミュージカルを通じた学習。

「まずは『サウンド・オブ・ミュージック』を鑑賞してそのあと『Edelweiss』を歌とギターで……」
ミュージカルは生徒たちの関心も高い。「今回はやりやすいな〜♪」と、思っていたのもつかの間。

♪ Edelweiss『サウンド・オブ・ミュージック』
♪ とびら開けて『アナと雪の女王』
♪ オペラ座の怪人『オペラ座の怪人』
♪ Tonight『ウエスト・サイド物語』
♪ Seasons of Love『レント』



——歌詞を乗せる前に階名で歌わせたら、なんだかゴニョゴニョとしてうつむきがちな生徒たち。

「階名がちゃんとわかってない……?」

どうして! 音楽室の壁には音階と各音名を書いたポスターも貼ってあるし、これまでだってみんな楽譜を見て歌ってたじゃない。

もしかして、歌詞をみてただけなの? そうなの?

落ち込むキョウカ先生。でも先生はめげなかった。

「音符早読みゲームをしながら階名、音名を覚えましょう!」

2. メロディーに乗って

STEP 1 【メロディー-A】を、「うらら」で歌ってみよう



●音の高さや長さを正しくとらえて歌おう。

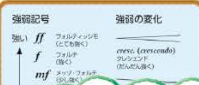
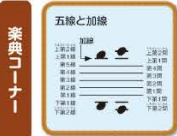
STEP 2 音符早読みゲームをしよう

記譜の練習にもなるし、歌えば視唱の練習にも

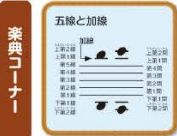
●音名を早く読んでみよう。



●できあがった楽譜を発表し合い、クラス全員の楽譜を読んで、楽譜を読む力をアップさせよう。
☆できた楽譜を歌ってみよう。



ここで五線譜のルールを説明して…



メロディー-Aは実は「Edelweiss」の対旋律になる。合わせてみて生徒も驚き!

人はリフックスすると、自然な声が出る。(ため息)をつく時の声がそのよい例である。

【A】いろいろな高さ、音型、大きさで、ため息のように声を出そう。自分の声や周りの人の声を聴くと、いろいろな音や音程(シブシブ、アルト、テノール、バス)があることや、それぞれの声の魅力に気づくだろう。
【I】下行音型で発声練習をしよう。無理のない自然な声で。
【ウ】ハミング(Hum)やダバ(ダバ(daba daba))で歌おう。

STEP 3 【メロディー-A】と【メロディー-B】のアンサンブル

●【メロディー-B】(「Edelweiss (エーデルワイス)」)と【メロディー-A】を一緒に歌い、重なり合った音の響きを味わおう。



☆この「Edelweiss」にギターを加えて演奏しよう(→p.86)。

視唱の練習と階名覚えに使える!

——少しずつだけど、楽譜を読むということに興味をもてるようになったみたい。よかった〜!

ONGAKUをはじめよう
[2.メロディーに乗って] (p.6-7)



キョウカ先生は、生徒たちに自信を与え、自分自身も譜読みの指導に自信を取り戻した!!

10月

世界の音楽から、音階を生かした創作へ！

—2学期の忙しさに追われながら、キョウカ先生は、今日もまた授業のことを考えていた……。
「もうじき交換留学生が来日するし、これを機に世界の音楽について学ぼう！」

アリラン

아리랑

●朝鮮半島民謡の代表曲

まずは「アリラン」からアジアの音楽、そして……

Sansa Kroma

ササ・クロマ

●アフリカのアンソングの歌集エイブラハム・コペ・アジンサ・編曲

[石渡しのパターン]

アジア世界の民族音楽の事象

諸外国の音楽

「世界各地にはどんな音楽があり、どんな特徴があるだろう？ それぞれ異なるくらしのなかで、音楽はどんな役割を果たしているだろう？」

メロディーはベースに乗って

五音階は、世界のさまざまな国や地域でみられる。鍵盤楽器（ピアノ、キーボード、鍵盤ハーモニカ）や鍵盤打楽器（マリンバなど）を弾くときにベースとして使われる。

今度は、C音を中心とした、いくつかの特徴ある音階でメロディーをつくってみよう。

「世界にはさまざまな音階があって、どの音階を使うかで音楽の印象が大きく変わるね。アリランの音階を使って、みんなもメロディーをつくってみよう」

いろいろな音階で短いメロディーをつくって、音階の違いを感じ取らせ……

一人で長い曲をつくれなくても大丈夫！ それぞれが作ったメロディーを組み合わせて立派な一曲に！

つくろう「メロディーはベースに乗って」(p.140-141)



キョウカ先生は世界のさまざまな音楽とさまざまな音階、そして創作の面白さを生徒たちに伝えることができた！



主体的に表現する力を伸ばすためにも創作領域の活動を増やしたいのですが、うまく指導できるか心配です……
(音友キョウカ 20代 高校教員5年目)



いきなり大曲を、と言われたら、指導する側も困ってしまいますよね。『ON!』は、ルールを設けて、短く、要素を一つずつ変えていく方法で、音楽Iの初期から、少しずつやさしいことから活動できるよう配慮しています。また、一つずつ変化させることで違いがわかりやすい=音楽を形づくる要素の働きが理解しやすくなります。
創作も、小さいことから身構えず、楽しんで取り組んでいただきたいのです。

1月

ヴォイス・アンサンブルで盛り上がる!

——キョウカ先生はまた今月の授業のことを思い返していた……

野菜の気持ち

※楽譜提供: 作詞・作曲

Allegretto

①ハチナ
②キャベツ
③しいたけ
④ニンジン
⑤ピーナツ

「ヴォイス・アンサンブルに挑戦しよう!」

——この曲は毎年盛り上がるのよね。言葉(野菜の名前)とリズムが一致していることにも気づいたみたい。なかなか鋭くなってきたな〜

「そう! 言葉にはリズムがあります。それを生かして、みんなもヴォイス・リズムをつくってみよう」

先生、言葉のリズムをあえてずらすのもおもしろいね

——そう、そうなのよ!

「じゃあヴォイス・リズムからグループでアンサンブルをつくってみようか! 楽器を加えてもいいよ。創作のヒントは、今まで学習したことや、教科書に載っていることからたくさん見つけられるはず!」

——言葉のリズムをみつける、それを意図的にずらす、他の言葉と重ねる、ベースやハーモニーを重ねる、五音音階を使う、強弱を変化させる……これまで学習したことをいろいろ試しながら、楽しみ、工夫して作品をつくり上げようとする生徒たち。

「いつの間に、こんなに成長していたなんて!」



キョウカ先生は音楽を形づくる要素を知覚し、組み合わせたい変化させたいして楽しむ生徒たちの姿に感動した……

ヴォイス・アンサンブルとボディ・パーカッション

言葉のリズムや抑揚を生かして組み合わせたヴォイス・アンサンブルや体だけを使って表現するボディ・パーカッションは、原始的で音楽のもつ力や効果がわかりやすい。歌に抵抗のある生徒も意欲的に参加してくれることが多いし、なにより盛り上がりやすい。

〈「改訂版 ON! 1」掲載曲〉

- Football Canon／●野菜の気持ち／●Beat Canon／●YOU CAN DO IT!

4 つくろう

✓ 言葉はリズムに乗って —— ヴォイス・リズムをつくろう

① 思いついた言葉や覚えておきたい言葉。例えば「いい国つくろう 鎌倉幕府」にリズムをつけてみよう。これは、源頼朝が征夷大将軍に任命された年(1192年)の語呂合わせ暗記法の言葉。

●リズムを考える。 (例) ♩ 4/4 い い く に つ く ろ う か ま く ら ば く ふ

●違うリズムをつけてみよう。 ♩ 4/4

●拍子、テンポ、強弱を工夫してみよう。 (例) ♩ 3/4 Allegretto *mp* い い く に つ く ろ う か ま く ら ば く ふ

●自分で工夫してつくってみよう。 ♩

② 次の、8分音符を主体としたリズム(②)に乗って、①を合わせて演奏してみよう。

Allegro ♩=120 「人に不意打ち 承久の乱」 ※承久の乱(1221年)による

① ♩ 2/4 い い く に つ く ろ う か ま く ら ば く ふ ひ と に ふ い う ち じ ゅ う き ゃ う の ら ん

② ♩ 2/4 熊を撃てたく 手をたたく

●②のリズムに合う①のリズムを、自由な言葉でつくってみよう。 ♩ 2/4

◇ヴォイス・アンサンブル(→p.78~79)の「Football Canon」や「野菜の気持ち」を演奏して、リズムと言葉の関係を体感しよう。

③ これまでのアイデアを生かしながら、ヴォイス・リズムの曲をつくってみよう。

- ・言葉は自由に探そう(年号暗記法、数学の公式、化学の元素周期表、国語の教科書の詩や漢詩など。もちろん自分でつくってもよい)。
- ・自由に即興的にリズムをつくり、それを楽譜に書いてみることもよい。
- ・p.78~79のヴォイス・アンサンブルのように、パートを複数にしてもよい。
- ・「音楽をはじめよう 1.リズムに乗って」(→p.4~5)の「リズムB」や「リズムC」(8ビート)を使い、打楽器と合わせてみることもできる。言葉のイメージに合った打楽器を考えよう。

♪ヴォイス・リズムを演奏していると、言葉に自然な抑揚(高低)がついてはいないだろうか。

つくろう「言葉はリズムに乗って」(p.138)



ただ楽曲を仕上げるだけでなく「音楽を形づくる要素」を知覚・感受させることも意識なくては。でも解説ばかりになってしまうと生徒も退屈してしまっ……

(音友キョウカ 20代 高校教員5年目)



名曲には「音楽を形づくる要素」が複合的に盛り込まれています。楽曲と離れたところでの座学や、単一の要素のドリル的な学習ばかりになってしまうと、せっかく学習したことを演奏のなかに生かせなかったり、鑑賞において聴く力がなかなか身に付かないことも。『ON!』は冒頭の「はじめよう」「ふかめよう」を通して、名曲の中で「音楽を形づくる要素」が複合的に絡み合い、生かされていることを、演奏しながら実感することができます。また「つくろう」を通して、「音楽を形づくる要素」の働きを実感することができます。実践や、既存の名曲を取り入れた学習は、生徒たちの能動的、創造的な表現力を伸ばします。

